



宝ヶ池公園 (2013年9月・飯田)

京都三山の一角をなし、人々の暮らしの中で歴史的にも景観的にも大切な役割をもつ宝ヶ池の森。かつては里山として、今は公園として、多くの人々に親しまれています。しかし今、その森の環境が激変し、危機に瀕しています。危機をもたらしている原因は単純ではありません。宝ヶ池の森を将来につないでいくためには、複雑にからみあった問題の全体像を俯瞰しながら、そして、問題の関係性を解きほぐしながら、解決の道筋を見出していかなければなりません。

宝ヶ池の森の今。森が抱える問題は？ (長島啓子)

急速に拡大したナラ枯れで、宝ヶ池の森ではアカマツに加えてコナラやアベマキまでもが枯れています。その結果、ソヨゴなどの数種の低木からなる低質林の拡大、外来種のナンキンハゼ林の形成がみられ、生物多様性の低下が危惧されます。豊かな森林の再生に向け、どこをどのような森林にしていくのか、議論と行動が必要です。

宝ヶ池を彩る (森本幸裕) 野生ツツジ類

春、ヤマザクラの花を楽しんだあと、まず咲きだすツツジがコバノミツバツツジ。少し遅れてヤマツツジとモチツツジ。その自然交配で生じたミヤコツツジも美しい。これらは痩せた土壌で育つ多様な里山攪乱依存種の代表です。秋にはヤマハゼに始まる紅葉だけでなく、河岸の崖に多いカラコギカエデにも注目。多様な生物に眼差しを。

公園になって (柴田昌三) 逆に適切な伝統的管理が失われていった宝ヶ池の森

宝ヶ池の森は、普通の里山でした。公園として整備されていく中で、森の整備は行われず、森は暗くなっていきます。コバミツも咲かなくなっていました。自生種でない花木を植える計画もありましたが、森を明るくすることでツツジが回復できることがわかりました。しかし、マツ枯れがやってきて、森はまた荒れ始めたのでした。

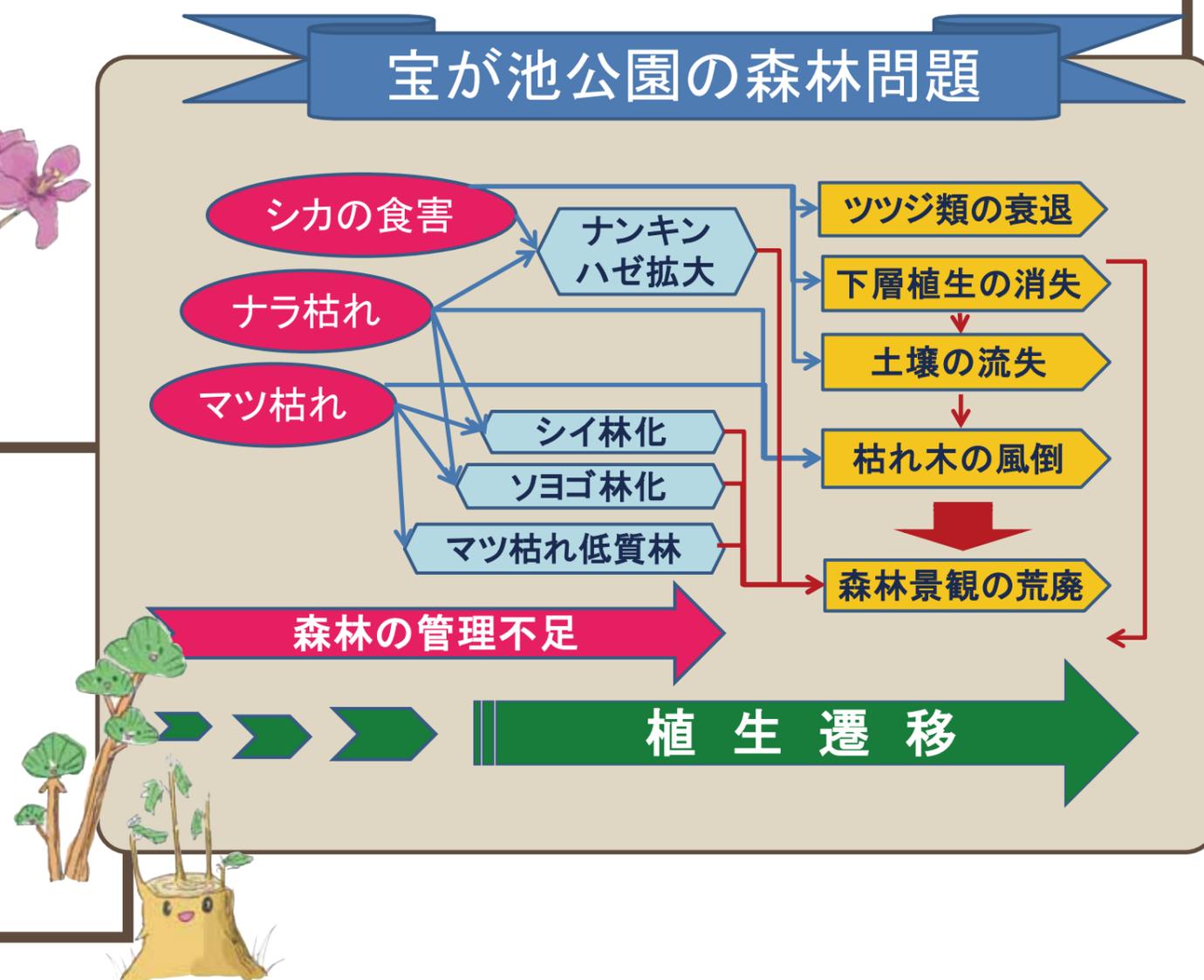
増えたシカ (高柳敦) 森に与える影響は？

シカも生物多様性の一員です。そしてシカがいれば森は何らかの影響を受けます。どこから被害となるかは、シカの個体数だけでなく、棲んでいる森の様子や人の影響によっても変わります。宝ヶ池周辺では、今、シカの影響で多くの植物が減少しています。このまま何もしなければ、貧弱な森になってしまう可能性が高いです。

三山ガイドラインって何？ (田中和博)

京都の市街地を取り囲む東山・北山・西山を総称して三山と呼びます。三山の森林景観を保全・再生し、京都らしい森林を次世代に引き継ぐため、適地適木の考え方を基本として、森林景観づくりの手順、技術的な指針を示したものが「京都市三山森林景観保全・再生ガイドライン」(平成23年)です。京都市のホームページからダウンロードできます。

宝ヶ池公園の森林問題



宝ヶ池の森の問題について、詳しく知りたい場合は、宝ヶ池連続学習会 (2013~2015年開催) での先生方のコメントをご覧ください。(公財)京都市都市緑化協会ホームページ (<http://www.kyoto-ga.jp>) からダウンロードいただけます。





アカマツ林



アベマキ・コナラ林 (秋)



シイ林



スギ・ヒノキ林



アカマツ



スギ



ナツハゼ



ソヨゴ



ヤブツバキ



コナラ



リョウブ



コシアブラ



コバノミツバツツジ



モチツツジ



ミヤコツツジ



ツクバネウツギ



カラコギカエデ



ウワミズザクラ



アセビ



ネジキ